

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03198

研究課題名(和文)19世紀ロシア茶貿易とグローバル市場：会計帳簿史料の分析

研究課題名(英文)Russian tea trade and global market: Analysis of accounting books

研究代表者

森永 貴子 (Morinaga, Takako)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：00466434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：帝政ロシアの茶貿易は清との国家間貿易だったと同時に、急激な消費拡大と民間商人の経済活動に支えられた。18世紀ロシアはキャフタを正式な露清交易拠点とする茶の陸路輸送が中心だったが、19世紀半ばまでイギリス船による海路の密輸や国境地帯住民の密輸が多く、国庫と商人両方の損失が危惧された。しかし天津条約(1858)以降はロシア帝国を包含する合法的な陸海の茶輸送ルートが確立する。本科研は、19世紀後半からロシア革命の時期まで露清貿易の最大品目だった茶の流通に焦点を当て、その越境ルートと商人の事業努力を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシアの茶の輸入ルート変化は、自ら清の市場に進出して製茶業に従事したロシア人企業家の活動と、ロシア市場のグローバル化が影響している。19世紀後半のロシアの茶貿易はユーラシア大陸を内外から包摂し、ロシア商人や多様なエスニシティが関与したことを本科研成果でも明らかにした。これは同地域でこれまで起こってきた政治紛争と異なる、民間商人のネットワークの存在を示している。本科研の意義は、従来政治・外交史視点で捉えられがちだった露清領帝国の経済的関係を民間商人、エスニシティという下からの視点で研究した点であり、現在も分析が難しいユーラシア大陸内部の流通問題に新しい知見を与えようとする。

研究成果の概要(英文)：Tea trade in Russian empire was not only international trade with Qing Empire, but also supported by rapid increase in consumption of tea and activity of Russian private merchants. Russia in the 18th century, had overland tea shipping system from Qing via trading post Kyakhta. But because of difficulties to eliminate smuggling of tea by British ships or indigenous people in borderlands, until mid-19th century, both national treasury and private merchants always feared the loss of gains in this trade. But after Convention of Tientsin (1858), with other political changes in trade, legal overland and maritime shipping system of tea was established including entire Russian empire. In this research, I focused on tea, which was the largest item of Russo-Qing Trade from mid-19th century to Russian revolution, revealed diversity of trade route and corporate efforts of merchants.

研究分野：ロシア史 社会経済史

キーワード：キャフタ 国境線 エスニシティ 茶 帝国 商人 密輸

1. 研究開始の背景

(1) 研究代表者は18 - 19世紀のシベリア史および貿易史から出発し、シベリア商人の毛皮事業とキャフタ貿易を軸に帝政ロシアの露清貿易を研究してキャフタ後背地のイルクーツクと商人の役割を明らかにしてきた。

(2) (1) から、イルクーツク商人の多くが19世紀に毛皮貿易衰退で茶貿易に転換したこと、そのネットワークがモスクワの大商人と密接に関係したこと、同時代に増加したロシアの茶消費の大部分がモスクワであったことが分かった。

(3) 以上から、ロシアの茶貿易は19世紀の密輸問題、中国貿易における外国（特にイギリス）との競争、ロシア市場のグローバル化の諸問題が浮かび上がり、商人や消費者の視点からキャフタ貿易のローカル性とグローバル性を分析する必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1) 19世紀ロシアの茶貿易はモスクワ商人らの圧力で、陸路のキャフタ貿易/キャフタ商人（キャフタ貿易に従事するため集まる商人）が擁護され、密貿易が問題だった。天津条約（1858）で海路貿易が可能になってから、彼らが陸路貿易をどう行ったか。

(2) ロシア政府は茶の関税確保のため密輸対策に努め、キャフタ商人の請願を支持し、海路輸入に高関税をかけることでキャフタ貿易を擁護した。しかし1860年代以後の茶の海路輸入拡大と商人の参入は具体的にどのような構造だったのか。

3. 研究の方法

(1) OPI GIM（国立歴史博物館手稿課、モスクワ）所蔵のモスクワ商人ボトキン家の会社史料のうち、帳簿および支払い手形を調査し、同家の事業がキャフタ貿易で受けた影響や変遷を分析する。

(2) ノッティンガム大学Manuscripts and Special Collections（史料・特殊コレクション）のうち、ロシアと取引があった商人銀行家プラント家回状（Circular）を調査し、茶貿易に関するロシア商人、会社の情報を分析する。

(3) これまでに収集した19世紀の露清貿易、中国貿易、ロシア商人の刊行情報を総合し、史料から分かる情報と比較検討する。

4. 研究成果

(1) まず基礎研究として、太平天国の乱以降、1853年にキャフタ貿易が危機に陥った際の、キャフタ商人の請願によるバーター取引廃止と貿易改革の過程を分析したのが〔雑誌論文〕「モスクワ商人とキャフタ危機」『ロシア史研究』（100号、2017）である。この中で研究代表者は茶の密貿易への官民の取り組みと、1850年代のキャフタ貿易危機に際し、モスクワ商人主導で金銀貨幣を用いた現金取引の実現が行われ、キャフタ貿易が国際貿易としての体裁を整備していった過程を明らかにした。

次に、1853年危機を経てロシアの茶輸入が増加した背景として、ロシアにおける茶の普及と茶文化成長を分析したのが“Tea drinking culture in Russia”, *Journal of International Economy, ICES, The Institute of Comparative Economic Studies*, (No.32, 2018) である。また「ロシア帝政末期の茶と社会運動」『立命館文学』（661号、2019）は、特にロシアのアルコール消費と農村部の関係を中心に、ロシアにおける茶の需要と禁酒運動について検討した。

一方、1858年の天津条約以降、ロシア商人が清に直接赴き、茶畑を買収して製茶事業を立ち上げた経緯を分析したのが「1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易:モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から」『北東アジア研究』（別冊4号、2018）である。この内容はその後の批判とノッティンガム大学で調査したプラント家回状の情報をより詳しく検討し、その成果を「第22章 清の門戸開放後におけるロシアの茶貿易:キャフタ・漢口の流通を材料に」『論集 北東アジアにおける近代的空間 その形成と影響』（2022）に掲載され、中国語版の翻訳、「第二十二章 清朝門戸開放後俄國的茶葉貿易:以恰克圖、漢口的流通為例」李曉東・李正吉主編『東北亞近代空間的形成及其影響』も刊行された。本科研で最も大きな研究成果は同論文と言える。

また、キャフタ貿易自体に関わる成果として、“The Russian Fur Trade and the Global Market: Kyakhta Trade in the Nineteenth Century”, *Linking Cloth/Clothing Globally: The Transformations of Use and Value, c. 1700-2000*, (2019) がある。この中でイルクーツクの茶商家系源流である毛皮貿易を19世紀の視点で分析した。また、キャフタ密貿易における国境地帯住民についてロシア側研究者レオニート・ヴラジーミロヴィチ・クラスが現地史料から分析した論考を、谷川春菜翻訳、森永貴子監修、新井幸康協力「キャフタ税関:密輸とその対策(18~19世紀)」として刊行した。

(2) (1) の成果に関連し、2017年に中国、長春の東北師範大学で開催された国際シンポジウム、人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学NEARセンター拠点プロジェクト第二回国際シンポジウム2017「北東アジア 胎動期の諸相」において、〔学会発表〕「1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易 モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から」を報告した。これは〔雑誌論文〕に先立つ報告である。

また2018年に東京大学で行われたワークショップGlobal History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850では、“Local tea trade against global free trade”と題して報告し、ローカル貿易としてのキャフタが抱える問題とロシア市場のグローバル化の間に生じた摩擦、地域商人の役割について論じた。2019年にプリンストン大学でのワークショップ、Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850では、“Challenging to Capitalism and International Market: Tea Traders under Tsarist Russia in World History”と題し、19世紀ロシアにおける資本主義の波と、茶商人グループの地域的多様性を論じた。

(3) 本科研期間中に刊行した書籍は一般向けの事典が中心である。〔図書〕『越境する歴史家たちへ「近代社会史研究会」(1985-2018)』(2019)では、研究生活に関するエッセイを執筆した。一方、『ロシア文化事典』(2019)では、「毛皮」の項目を執筆した。

『論点・西洋史学』(2020)では「農奴解放」の項目を執筆し、ロシア史、西洋史における先行研究と評価の解説をした。本科研に最も関わるのは社会経済史学事典(2021)で、「ロシア・内陸アジア交易」の項目を担当し、キャフタ貿易と内陸アジアの経済史を説明した。

以上、本科研はコロナ禍のため研究に多くの支障があったが、おおむね現時点で一定の成果を残せたと考える。これらの研究成果を今後の研究の発展につなげたい。

1. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕

1. 著者名：森永貴子	4. 巻号：100号
2. 論文表題：モスクワ商人とキャフタ危機 - 公文書が示す一九世紀露清貿易の構造と変化	5. 発行年：2017
3. 雑誌名：ロシア史研究	6. 最初と最後の頁：119-144, 3
掲載論文のDOI	査読の有無：有
オープンアクセス	国際共著

1. 著者名：Takako Morinaga	4. 巻号：32
2. 論文表題：Tea drinking culture in Russia	5. 発行年：2018
3. 雑誌名：Journal of International Economy, ICES, The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University	6. 最初と最後の頁：57-74
掲載論文のDOI	査読の有無：有
オープンアクセス： http://hdl.handle.net/10114/13901	国際共著：有

1. 著者名：森永貴子	4. 巻号：別冊4号
2. 論文表題：1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易：モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から	5. 発行年：2018
3. 雑誌名：北東アジア研究	6. 最初と最後の頁：101-124
掲載論文のDOI:	査読の有無：無
オープンアクセス： http://id.nii.ac.jp/1377/00001924/	国際共著

1. 著者名：森永貴子	4. 巻号：661号
2. 論文表題：ロシア帝政末期の茶と社会運動	5. 発行年：2019
3. 雑誌名：立命館文学	6. 最初と最後の頁：81-102
掲載論文のDOI	査読の有無：無
オープンアクセス	国際共著

1. 著者名：Morinaga Takako	4. 巻号：-
2. The Russian Fur Trade and the Global Market: Kyakhta Trade in the Nineteenth Century	5. 発行年：2019
3. 雑誌名：Linking Cloth/Clothing Globally: The Transformations of Use and Value, c.1700-2000, Tokyo: ICES, Hosei University Publishing	6. 最初と最後の頁：169-190
掲載論文のDOI	査読の有無：有
オープンアクセス	国際共著

1. 著者名：レオニート・ヴラジーミロヴィチ・クラス著、谷川春菜翻訳、森永貴子監修、新井幸康協力	4. 巻号：43号
2. 論文表題：翻訳論説「キャフタ税関：密輸とその対策(18~19世紀)」	5. 発行年：2021

3. 雑誌名：史滴	6. 最初と最後の頁：228-262
掲載論文のDOI	査読の有無：有
オープンアクセス	国際共著

1. 著者名：森永貴子	4. 巻号 -
2. 論文表題：第22章 清の門戸開放後におけるロシアの茶貿易ーキャフタ・漢口の流通を材料に	5. 発行年：2022
3. 雑誌名：李暁東・李正吉編著『論集 北東アジアにおける近代的空間 その形成と影響』明石書店	6. 最初と最後の頁：565-598
掲載論文のDOI	査読の有無：無
オープンアクセス	国際共著：有

1. 著者名：森永貴子	4. 巻号 -
2. 論文表題：第二十二章 清朝門戸開放後俄國的茶葉貿易：以恰克圖、漢口の流通為例	5. 発行年：2022
3. 雑誌名：李暁東・李正吉主編『東北亞近代空間的形成及其影響』国家書店	6. 最初と最後の頁：450-477
掲載論文のDOI	査読の有無：無
オープンアクセス	国際共著：有

〔学会発表〕

1. 発表者名：森永貴子
2. 発表標題：1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易 モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から
3. 学会発表：人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学NEARセンター拠点プロジェクト第二回国際シンポジウム2017「北東アジア 胎動期の諸相」（於：東北師範大学）
4. 発表年：2017

1. 発表者名：Takako Morinaga
2. 発表標題：Local tea trade against global free trade
3. 学会発表：Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850（於：東京大学）
4. 発表年：2018

1. 発表者名：Morinaga Takako
2. 発表標題：Challenging to Capitalism and International Market:Tea Traders under Tsarist Russia in World History
3. 学会発表：Global Hisotry Roundtable Workshop (at Princeton University)
4. 発表年：2019

〔図書〕

1. 著者名：谷川稔・川島昭夫・南直人・金澤周作編著（「京都の研究生活と近社研」執筆：森永貴子）	4. 発行年：2019
2. 出版社：ミネルヴァ書房	5. 総ページ数：376
3. 書名：越境する歴史家たちへ 「近代社会史研究会」（1985-2018）からのオマージュ	

1. 著者名：沼野充義・望月哲男・池田嘉郎編集代表（「毛皮」項目執筆：森永貴子）	4. 発行年：2019
2. 出版社：丸善出版	5. 総ページ数：890
3. 書名：ロシア文化事典	

1. 著者名：沼野充義・望月哲男・池田嘉郎編集代表（「農奴解放」項目執筆：森永貴子）	4. 発行年：2020
2. 出版社：ミネルヴァ書房	5. 総ページ数：340
3. 書名：論点・西洋史学	

1. 著者名：社会経済史学会編（「ロシア・内陸アジア交易」 執筆：森永貴子）	4. 発行年：2021
2. 出版社：丸善出版	5. 総ページ数：716
3. 書名：社会経済史学事典	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 -
2. 論文標題 第22章 清の門戸開放後におけるロシアの茶貿易ーキャフタ・漢口の流通を材料に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 李曉東・李正吉編著『論集 北東アジアにおける近代的空間 その形成と影響』明石書店	6. 最初と最後の頁 565 - 598
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 -
2. 論文標題 第二十二章 清朝門戸開放後俄國的茶葉貿易: 以恰克圖、漢口の流通為例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 李曉東・李正吉主編『東北亞近代空間的形成及其影響』国家書店	6. 最初と最後の頁 450-477
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 レオニート・ヴラジーミロヴィチ・クラス著、谷川春菜翻訳、森永貴子監修、新井幸康協力	4. 巻 43
2. 論文標題 翻訳論説「キャフタ税関：密輸とその対策（18-19世紀）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史滴	6. 最初と最後の頁 228-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 661号
2. 論文標題 ロシア帝政末期の茶と社会運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 81-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Morinaga Takako	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Russian Fur Trade and the Global Market: Kyakhta Trade in the Nineteenth Century	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Linking Cloth/Clothing Globally: The Transformations of Use and Value, c .1700-2000, Tokyo: ICES, Hosei University Publishing	6. 最初と最後の頁 161-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 100
2. 論文標題 モスクワ商人とキャフタ危機 - 公文書が示す一九世紀露清貿易の構造と変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 119-144, 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takako Morinaga	4. 巻 32
2. 論文標題 Tea drinking culture in Russia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Economy, ICES, The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 森永貴子	4. 巻 別冊4号
2. 論文標題 1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易 : モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北東アジア研究	6. 最初と最後の頁 101-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Morinaga Takako
2. 発表標題 Challenging to Capitalism and International Market: Tea Traders under Tsarist Russia in World History
3. 学会等名 Global History Roundtable Workshop (at Princeton University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森永貴子
2. 発表標題 1860年代以降におけるロシアと清の茶貿易 モスクワ、キャフタ、漢口を結ぶ流通の視点から
3. 学会等名 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学NEARセンター拠点プロジェクト第二回国際シンポジウム2017「北東アジア胎動期の諸相」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takako Morinaga
2. 発表標題 Local tea trade against global free trade
3. 学会等名 Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c.1550-1850 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 社会経済史学会編（「ロシア・内陸アジア交易」執筆：森永貴子）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 716
3. 書名 社会経済史学事典	

1. 著者名 谷川稔・川島昭夫・南直人・金澤周作編著（「京都の研究生活と近社研」執筆：森永貴子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 越境する歴史家たちへ 「近代社会史研究会」（1985-2018）からのオマージュ	

1. 著者名 沼野充義・望月哲男・池田嘉郎編集代表（「毛皮」項目執筆：森永貴子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版社	5. 総ページ数 890
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 金澤周作監修、藤井崇・青谷秀紀・古谷大輔・坂本優一郎・小野沢透編著（「農奴解放」項目執筆：森永貴子）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 論点・西洋史学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------